



題字揮毫・故 瀬島龍三氏

第 16 号

財団法人 大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会

〒105-0014 港区芝2-5-19
TAビル4階

電話 03 (5730) 0421
FAX 03 (5730) 0422

<http://homepage2.nifty.com/ireikyuu>

振替口座 00140-6-334930

編集人 飯田正能
発行人 柚木文夫
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目 次

年頭のご挨拶	1
謹賀新年	2
慶祝 天皇陛下御即位二十年	3
靖國神社秋季例大祭	7
御創立百四十年記念大祭	7
千鳥ヶ淵戦没者墓苑創建	9
五十周年記念秋季慰霊祭	11
今、何を語らん	14
賛助会員からのお便り	14
事務局からの報告等	15
新入会員等紹介	16

年頭のご挨拶



山本卓眞会長

会員の皆様、良い正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

天皇陛下には昨年御即位20年をお迎えあそばされ、11月12日には国民挙げての奉祝式典並びに国民祭典が盛大に挙行されました。皆様と共に衷心よりお祝い申し上げます。

今年の正月は戦後65回目に当たります。若い方々には実感が無いかも知れませんが、昭和初期の20年に比べると、平和の続く中で正月を迎えられるとい

うことは誠に喜ばしいことです。

世界では今日なお各地で紛争や小規模の戦争が続いていますが、大規模戦争の確率は極小になったように見えます。そして、我が国の平和は、前大戦での多数の英霊と、戦火に倒れた人々の礎の上にあることに深く思いを致すべきであると存じます。

名誉総裁三笠宮崇仁親王殿下には、昨年7月の靖國神社における合同慰霊祭に御臨席の上、会員各団体の代表者を始め会員一同に御会釈を賜り、かつ一同と共に御参拝くださいました。会員一同大変光栄に存じますとともに、殿下の御健勝を心よりお慶び申し上げます。なお、当日御都合により合同慰霊祭に出席できず、玉串を捧げて在宅参拝をされた方々も358名に上りました。御報告申し上げるとともに御礼申し上げます。

また、本会の前会長、故瀬島龍三氏

の御遺族、緒方威・繁代様から多額の御寄附を頂きました。瀬島基金として考えております。

会員の皆様には旧年中、本会の事業と運営に御参加、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新たに本会の正会員となられたのは、姫路偕行会、宮崎県偕行会、福井県偕行会、鹿児島偕行会、筑後地区偕行会、佐賀県偕行会、旧戦友連及びエラブカ東京都人会の8団体で、団体総数は32となりました。会員の高齢化に伴い、戦友会や慰霊団体などが解散を余儀なくされている中で、上記8団体の参加は誠に奇特なことであり、心から感謝申し上げます。

過去3年間、3人の首相の靖國神社参拝が途絶え、多くの人々を嘆かせましたが、昨年9月民主党政権が発足したからは、首相の参拝は全く期待でき



靖國神社奉納大絵馬



なくなりました。小泉首相以後の自民党も含めて、一部政治家の信念に疑問符を付け、明治以来の靖國神社の歴史、東京裁判の不当性、戦後昭和28年国会でのいわゆる「戦争犯罪人」の否定、元「A級戦犯」であった重光葵外務大臣や賀屋興宣法務大臣が国際的にどこからも批判を受けずに活躍されたことなど、先人が既に決着済みの歴史に対する不勉強を強く指摘したいと思います。

まして、靖國神社に代わる国立追悼施設の建設などは、「靖國神社で会おう」と言い交わして一身を捧げられた英霊への背信そのものとしか言いようがありません。「誰もわだかまり無く参拜できる施設」を造ると言いますが、肝心の全遺族、戦友、更に多数の国民

が大きなわだかまりを持つことになるのは明白であります。近隣諸国に気兼ねして国家の威信を損ない、内政干渉に屈して相手の言いなりになるのは外交では無く、屈従と言うべきであります。私達は政治家への不信感を超えて怒りをあらわにすべき時が来たと思えます。課題は何時、如何なる手段で、他の慰霊団体と協力あるいは分担して有効に訴求するかにあります。皆様にも是非御考慮頂きたくお願いする次第であります。同時にネットを活用して広く国民に訴えることも必要で、この点特に若い方々に期待いたします。

戦後、GHQによって歪められ、東京裁判史観に汚染された教育は現在の政官民に浸透し、なお若い世代にも影響を及ぼしつつありますが、「新しい教科書をつくる会」「日本教育再生機構」など諸活動も徐々に成果を上げつつあり、私達もこれに協力して日本の正常化に寄与すべきであります。昨年来の教育に関する国会の動きには逆の懸念も出てきていますが、幸いにして国会には健全な主張をされる議員もおられますので、これらの先生方を応援し、連携を心掛けてまいります。遺骨収集と海外の慰霊碑に関しては、難しい海外事情もあり、残念ながら順調に進捗とは言い難い状況で、新政権下では更に見通し困難の状況ですが、厚生労働省、関係団体との連絡を密にして着実に進めることといたします。この点海外の事情をよく御存じの団体からの情報、提案、御意見を歓迎いたします。

御存じのように、当協議会は新公益財団法人の認定を受けるべく準備を進めていますが、手続きと認定には、なお時間を要する段階にあります。昨年も申し上げましたが、私達の切なる願いは、全国民の戦没者慰霊顕彰の誠意の象徴として、先ず「首相の靖國神社参拝」を定着させることであります。各慰霊団体と共に世論を動かすべく、御協力をお願いして新年の御挨拶といたします。

平成二十二年元旦
財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
会長 山本 卓眞

新年 賀 謹

財団法人 偕行社
会長 山本卓眞
副会長 齋須重一
同 塩田章
同 志摩篤
理事 福田一
事務局長 菊地勝夫

財団法人 水交会
会長 林崎千明
理事長 夏川和也
副理事長 巖田壮吉
専務理事 藤田幸生
事務局長 池邑正男

航空自衛隊退職者団体 つばさ会
会長 村木鴻二
副会長 津曲義光
同 杉山弘
同 横幕功
同 山本修三

財団法人 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
名誉総裁 三笠宮崇仁親王殿下
会長 山本卓眞
副会長 岩下邦雄
同 齋須重一
理事長 柚木文夫

慶祝 天皇陛下御即位二十年

天皇陛下は昨平成21年、御即位20年の節目の年を迎えられた。

昭和64年（1989年）1月7日、昭和天皇御崩御、直ちに第125代の天皇として御即位、翌8日「平成」と改元、翌9日「即位後朝見の儀」を、2月24日には、昭和天皇「大喪の礼」を執り行われ、翌平成2年11月12日「即位の礼」をもって御即位を内外に宣明され、11月22日～23日には、「大嘗祭・大嘗宮の儀」を執り行われてよ



天皇・皇后両陛下御近影

り、早くも20年の歳月が流れた。一人感慨深いものがある。

平成21年11月12日（木）、この日はこれまで全国各地で行われてきた御即位20年の奉祝行事のクライマックスとも言うべき政府主催の御即位20年記念式典が国立劇場で催され、夜は皇居前広場で「国民祭典」が開かれた。

この日は朝から薄ら寒い曇天に覆われた日ではあったが、皇居前広場は全国各地から祝賀に訪れた大勢の人々の熱気に溢れていた。宮内庁庁舎前での祝賀の記帳に訪れる人々、夕方から二重橋前で開催される「国民祭典」に早々と出席する人々、色鮮やかに飾り立てた祭りの山車や神輿、大勢の民謡踊り

の連や囃子、様々なパレード等々祝賀のムードに溢れていた。

「国民祭典」は、二重橋前広場の特設会場で夕方から開催されたが、会場広場は3万個の提灯の明かりで埋められた。

祭典では、参列した各界の著名人が交々立って、御即位20年を迎えられた天皇陛下に祝辞を述べたが、中でも政府主催の記念式典に先立って行われた記者会見や、記念式典でのお言葉の中で平成生まれのスポーツマンを激励された両陛下に対し、讀賣巨人の原辰徳監督は「世界にチャレンジする若者たちを温かくお見守りいただき、これに勝る喜びはありません」と、その感動を力を込めて申し上げた。

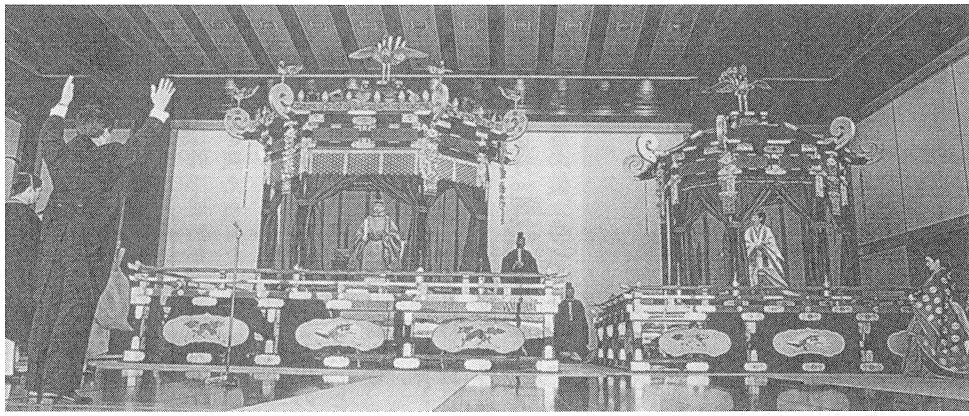
そして、午後6時半過ぎ天皇、皇后両陛下が皇居・二重橋の欄干前にお立ちになると、参列した人々から一斉に「万歳」の大歓声が上がリ、手にした3万個の提灯が打ち振られた。両陛下も提灯を御手にこれにお答えになられた。秋元康作詞、岩代太郎作曲のオリジナル奉祝曲を人気グループEXILEが歌い上げる間、両陛下は笑みを浮かべられながら聞き入られた。そして、国民の祝福に感謝のお言葉を述べられるとともに、寒い中、集まってくれた人々に労りのお言葉を掛けてくださっ

た。

御即位20年、この間、天皇陛下は、皇后陛下と共に、平成元（1989）年5月20日、徳島県へ、御即位後初の地方御巡幸を始められてより、平成3（2003）年11月14日、鹿児島県への御巡幸をもって、御即位後15年間で47都道府県全部を回られ、親しく地方の実情を視察され、多くの国民と接せられた。天皇陛下は「できる限り早い時期に全国を回りたい」と希望され、「国の様々な分野の状況を知り、社会のために尽くしている人々に会い、心を寄せることは私の大切な務め」（平成6（1994）年の記者会見）というお考えから、日本列島の地図に、行幸地のピンを刺しながら行幸を重ねられたという。こうした地方への行幸先には、ハンセン病患者の療養所や障害者施設もあり、毎年、「こどもの日」「敬老の日」「障害者週間」にも、関係する施設を訪ねられ、その度に温かい触れ合いが綴られてきた。

被災地のお見舞いも特に大事にされてきた。平成3（91）年7月には長崎県の雲仙・普賢岳噴火の被災地、平成5（93）年には北海道南西沖地震の奥尻島、平成7（95）年には阪神・淡路大地震の兵庫県と、両陛下は救助活動が落ち着くのを待って日帰りで見舞わ

即位礼正殿の儀 高御座の天皇陛下に御即位を祝して万歳を三唱する海部俊樹内閣総理大臣 (平成2年11月12日)



祝賀御列の儀 皇居前広場をご通過、赤坂御所に戻られる両陛下

れた。6400人以上が亡くなった阪神・淡路大地震では、雪が舞い寒風が吹く中、手袋もされず、被災者一人ひとりの手を取られて「希望を持って頑張ってください」と労り励まされた。「国民と心を共に」という両陛下のお考えが、その根底にあつてのことである。

更に「先の大戦」の惨禍が、天皇、皇后両陛下の御心から離れたことはない。戦後50年の平成7(1995)年両陛下は長崎、広島、沖縄、そして空襲の犠牲者を悼む東京都慰霊堂を訪ねられる「慰霊の御巡行」で、戦没者の冥福を祈られた。その前年には硫黄島

を訪ねられ、「鎮魂の碑」に拝礼しておられる。一連の御巡行の後、「これから、この戦いに連なるすべての死者の冥福を祈り、遺族の悲しみを忘れることなく、世界の平和を願いつつ、いきたい」との御心を示された。また、戦後60年の平成17(2005)年には、サイパン島を訪ねられ、日本政府が建立した「中部太平洋戦没者の碑」に供花・拝礼され、「パンザイクリフ」などを訪ねられて黙礼をされた。親善訪問ではなく、慰霊のために両陛下が外国を訪ねられたのは初めてのことであった。

この慰霊は「陛下の強い御希望」で計画され、予定になかった沖縄出身者の慰霊碑「おきなわの塔」と「韓国平和記念塔」にも拝礼された。

天皇陛下即位20年 原監督ら著名人が祝辞



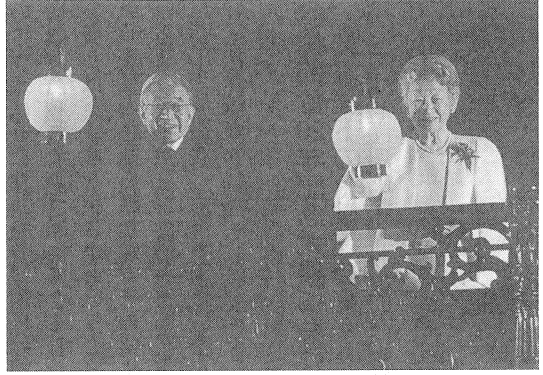
即位20年を祝う国民祭典で祝辞を述べる原辰徳監督(上)、高橋尚子さん(右下)、ダンスを披露するEXILE(左下)、(いずれも12日、皇居前広場で)(読賣新聞21年11月13日朝刊より)



日の長崎原爆の日、そして8月15日の終戦記念日を挙げられ、それぞれの日に黙祷を捧げられている。戦没者への追悼と平和を願われる深い大御心、真摯な御姿に改めて深い感動を覚えるのである。



皇居前を埋め尽くした3万人が提灯と日の丸の小旗を手に、聖寿万歳（同右）【提供／奉祝委員会】



皇居・二重橋から、国民の提灯の奉祝におこたえになる天皇后両陛下（11月12日、国民祭典）



サイパン慰霊で、多くの日本人が身を投げたバンザイクリフに向かい黙礼をされる両陛下（2005年6月28日）



戦後60年に当たり、太平洋戦争の激戦地・サイパン島を御訪問、「中部太平洋戦没者の碑」に供花される両陛下（2005年6月28日）

○天皇陛下下語録

〔「読売新聞」平成21年11月12日朝刊より〕

「皆さんとともに日本国憲法を守り、これに従って責務を果たすことを誓い、国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望してやみません」（1989年1月9日、即位後朝見の儀で）

「昭和天皇は平和というものを大切に考えていらつしやり、また、憲法に従って行動するということを守ることをお努めになり、大変ご苦労が多かったことと深くお察ししています。先の大戦では、内外多数の人々が亡くなり、また、苦しみを受けたことを思うと、誠に心が痛みます」（89年8月4日、即位後初の記者会見で）

「両国の関係の永きにわたる歴史において、我が国が中国国民に対し多大の苦難を与えた不幸な一時期がありました。これは私の深く悲しみとするところであります」（92年10月23日、北京・人民大会堂での歓迎晩さん会で）

「国民の幸せを常に願っていた天皇の歴史に思いを致し、国と国民のために尽くすことが天皇の務めであると思っております。（中略）昭和天皇のお気持ちを引き継ぎ、国と社会の要請、国民の期待にこたえ、国民と心を共にする

よう努めつつ、天皇の務めを果たしていききたいと考えています」(98年12月18日、65歳の誕生日を前にした記者会見で)

「公務をしつかり果たしていくことが、病気に当たって心を寄せられた多くの人々にこたえる道であると思っております。国民への公表については、日程の変更や治療を国民の理解の下にすることが大切と考えるからです」(2003年12月18日、70歳の誕生日を前に、前立腺がんを公表し手術したことについて)

「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」であるという(憲法の)規定に心を致しつつ、国民の期待にこたえられるよう願ってきました。象徴とはどうあるべきかということはいつも私の念頭を離れず、その望ましい在り方を求めて今日に至っています」(09年4月8日、ご結婚50年に際しての記者会見で)

○御即位20年記念式典における 天皇陛下のお言葉全文

「平成21年11月12日(木)、国立劇場で挙行された御即位20年記念式典における天皇陛下のお言葉の全文は、次のとおりである。」

即位20年に当たり、政府並びに内外の多くの人々から寄せられた祝意に対し、深く感謝します。

今年、平成生まれの人が成人に達した年で、スポーツその他の分野でも、既に平成生まれの人々の活躍が見られるようになりました。20年という時の流れを思い、深い感慨を覚えます。ここに即位以来の日々を顧み、私どもを支え続けてくれた国民に心から謝意を表します。

この20年、様々なことがありました。とりわけ平成7年の阪神・淡路大震災を始めとし、地震やそれに伴う津波、噴火、豪雨等、自然災害が幾度にもわたり我が国を襲い、多くの人命が失われたことを忘れることはできません。改めて犠牲者を追悼し、被災した人々の苦勞を思い、復興のために尽力してきた地域の人々、それを全国各地より支援した人々の勞をねぎらいたく思います。

即位以来、国内各地を訪問することに努め、15年ですべての都道府県を訪れることができました。国と国民の姿を知り、国民と気持ちを分かち合うことを、大切なことであると考えてきました。それぞれの地域で、高齢化を始めて様々な課題に対応を迫られていることが察せられましたが、訪れた

地域はいずれもそれぞれに美しく、容易でない状況の中でも、人々が助け合い、自分たちの住む地域を少しでも向上させようと努力している姿を頼もしく見てきました。これからも、皇后と共に、各地に住む人々の生活に心を寄せていくつもりです。

先の戦争が終わって64年がたち、今は国民の4人に3人が戦後生まれの人となりました。この戦争においては、310万人の日本人の命が失われ、また外国人の命も多く失われました。その後、日本の復興は、戦後を支えた人々の計り知れぬ苦勞によって成し遂げられたものです。今日の日本がこのような大きな犠牲の上に築かれたことを忘れることなく、これを戦後生まれの人々に正しく伝えていくことが、これからの国の歩みにとり、大切なことではないかと考えます。

この20年間に国外で起こったこととして忘れられないのはベルリンの壁の崩壊です。即位の年に起こったこの事件に連なる一連の動きにより、ソビエト連邦からロシアを含む15か国が独立し、それまでは外部からうかがい知ることのできなかったこれらの地域の事情や歴史的事実が明らかになりました。より透明な世界が築かれていくことに深い喜びを持ったことが思い起こされます。

ます。

しかし、その後の世界は人々の待ち望んだような平和なものとはならず、今も各地域で紛争が絶えず、多くの人命が失われているのは誠に残念なことです。世界の人々が、共に平和と繁栄を享受できるようにすることを目指して、すべての国が協力して努力を積み重ねることが大切だと思います。

今日、我が国は様々な課題に直面しています。このような中で、人々が互いに絆を大切にし、英知を結集し、相携えて努力することにより、忍耐強く困難を克服していけるよう切に願っています。

平成2年の即位礼の日は、穏やかな天候に恵まれ、式後、赤坂御所に戻るころ、午後の日差しが、国会議事堂を美しくあかね色に染めていた光景を思い出します。あの日沿道で受けた国民の祝福は、この長い年月、常に私どもの支えでした。即位20年に当たり、これまで多くの人々から寄せられた様々な善意を顧み、改めて自分の在り方と務めに思いを致します。

ここに、今日の式典をこのように催されたことに対し、厚く感謝の意を表し、国の繁栄と国民の幸せを祈ります。

(飯田正能記)

靖國神社秋季例大祭・ 御創立百四十年記念大祭

平成21年は、靖國神社御創立百四十年記念の年であった。この節目の年を迎えるに当たり、靖國神社では、平成20年6月から平成22年3月末日までの予定で、次の記念事業を実施することとなり、広く記念事業御奉賛金の募金と崇敬奉賛会会員の募集を行い、これまでに記念事業は着々と進行し、その大部分は既に完成している。

- ① 大手水舎等屋根葺き替え工事
- ② 能楽堂の改修
- ③ 「靖國教場」（仮称）の新築並びに相撲場の整備
- ④ 遊就館収蔵絵画の修復

平成21年秋季例大祭は、御創立百四十年記念大祭と併せて盛大かつ厳肅に齋行された。10月17、18の両日は例大祭、19、20の両日は記念大祭である。

17日午後3時、拜殿前南庭において清祓が行われ、同日午後7時には、浄閣の中「第百三十四回霊璽奉安祭」が厳かに齋行され、新たに十三柱の神霊が御本殿正床に奉遷された。

翌18日、午前10時から「当日祭」が齋行され、増矢稔日本遺族会副会長、

中條高德英霊にこたえる会会長、田中恆清神社本庁副総長、扇千景靖國神社崇敬奉賛会会長、小田村四郎・三好達・島津肇子・所功・古河潤之助各崇敬者総代、湯澤貞靖國神社元宮司、ルーマ

ニア大使館首席参事官等を始め招待者726名が参列し、国歌斉唱の後、國學院大學吹奏楽部が奏する、「国の鎮」が流れる中、御内陣の御扉が開かれた。海の幸、山の幸等の「献饌ノ儀」の後、

京極高晴宮司が祝詞を奏上した。次いで午前10時30分、参列者一同奉迎申し上げる中、山田蓉掌典が勅使として参向し、御幣物を奉献し、大御心のまにまに御祭文が奏上された。

続いて國學院大學フォイエールホール混声合唱団による「鎮魂頌」と「靖國神社の歌」の献樂があり、京極宮司と特別参列者等が玉串を奉じて拝礼し、その後、京極宮司から参列者に対し、後掲のような御挨拶があった。なお、同様の御挨拶は、記念大祭においても行われた。

19日と20日には、御創立百四十年記念大祭「第一日ノ儀」と「第二日ノ儀」が、それぞれ午前10時より齋行された。

「第一日ノ儀」には、増矢稔日本遺族会副会長、矢田部正巳神社本庁総長、江種宏之全國護國神社會會長、湯澤貞靖國神社元宮司、山本卓眞・阿南惟正両崇敬者総代等を始め1791名が参列し、「第二日ノ儀」には、堀江正夫英霊にこたえる会名誉会長、藤本良爾靖國神社崇敬奉賛会常務理事等を始め1417名が参列した。

また、20日午後6時からは「直会ノ儀」が齋行され、祭典の諸儀は無事終了した。

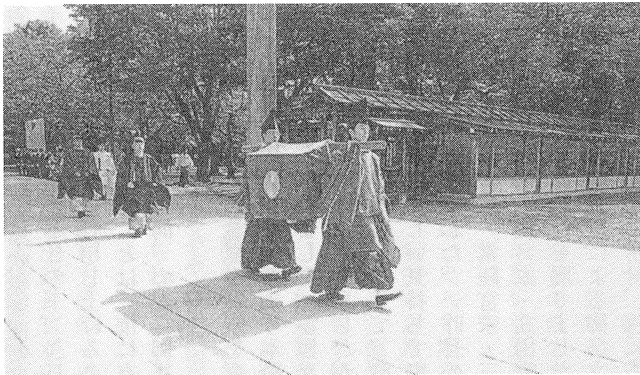
なお、祭典期間中、19日の午後1時半には、寛仁親王殿下が到着殿に御参



国会議員団の参拝

着。暫し御休憩の後、昇殿され、玉串を捧げて拝礼された後、拜殿において遺族・崇敬者等にお声掛けをされた。また、20日の午前8時には、「みんな靖國神社に参拝する国会議員の会」の衆参両院議員123名（代理を含む）が参拝した。

大祭期間中、明治神宮・靖國神社献饌講（黒澤一講元）奉納による紅白の祝餅約5千袋が参拝者等に配られた。同講は、御祭神に郷土の米を召し上がって戴きたいと、黒澤忠次氏を中心に茨



勅使参向

城那珂郡の篤志家により結成され、昭和17年から今日まで靖國神社と明治神宮に神饌米と祭典の鏡餅を奉納し続けており、今回は御創立百四十年を祝し、特別に祝餅を調製して奉納されたとのことである。

なお、大祭期間中、遊就館は連日多くの見学者で盛況を呈し、拝殿前、能楽堂、その他の境内では、数々の奉納行事が催され、日本ボーイスカウト東京連盟の小中学生による庭燎(かがり火)奉仕も毎夜行われた。

○平成21年秋季例大祭及び御創立百四十年記念大祭・当日祭 宮司挨拶

本日の秋季例大祭・当日祭齋行に当たり、勅使山田蒼掌典の御参向を仰ぎ、



京極宮司御挨拶

また御遺族・崇敬者等かくも多数の御参列を賜り、國學院大學吹奏楽部とフォイエール混声合唱団の奉仕の下、当日祭に併せて合祀祭を齋行申し上げることができませんでしたことは、洵に有り難く、神社奉職者一同、心から御礼申し上げます。

昨夜浄閣のうちに靈聖奉安祭を齋行し、十三柱の新祭神を相殿より本殿正床に御遷し申し上げました。靈聖奉安齋行の直前に一雨ございましたが、まさに清めの雨でございまして、時刻には雨もあがり清々しい気持ちで御奉仕することができました。一昨日の十六日には、秋篠宮家・常陸宮家・三笠宮家・寛仁親王家・桂宮家・高円宮家より御玉串料の御献進を賜りました。

本日の勅使の御差遣による御祭文の奏上、御幣物の供進と併せ、洵に忝い限りでございます。さらに、明日午後には寛仁親王殿下が御参拝の予定でございます。皇室の靖國神社にお寄せ下さいます格別の御芳情には神霊のお喜びは元より御遺族、又ここに御参列の各位、そして私共祭典奉仕に携わる者一同感激し、喜びを共にする所であり

ます。

さて、神社の近況につきましていくつか御報告を申し上げます。

まずは、本年一月七日に南部利昭前

宮司が逝去されましたことと、その日、早朝に執り行われました昭和天皇武蔵野陵遥拜式を終えられて宮司室に戻られた直後に、心不全により急逝されました。その為、今年の春季例大祭は三井勝生前権宮司が宮司代行者として奉仕され、そして、去る六月十五日付を以ちまして、私、京極高晴が第十代宮司に就任を致しまして、この秋季例大祭から御奉仕することになりました。どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

靖國神社におきましては、このたびの秋季例大祭に併せて御創立百四十年記念大祭を齋行致します。明治二年に靖國神社の前身の東京招魂社が創立されましてから百四十年という節目の年に当たります。

この御創立百四十年を記念して記念事業を推進しておりますが、多くの皆様の御支援、御協力を戴きまして、来年二月に完成予定の相撲場整備改修事業の竣工を以ちまして、記念事業は、ほぼ完了することになります。

また靖國神社崇敬奉賛会におきましては、昨今の靖國神社を取り巻く社会情勢と経済状況の甚だしい中であって、扇会長を始め役員・会員各位の絶大な御支援によって、「英霊のみこころを次の世代に伝える」という大きな目

的を顕現するために、多くの事業を積極的に展開して戴いておりますことは、誠に心強く、まず以って心より深く感謝申し上げます。

次に遊就館に關しましていくつか御報告致します。

遊就館では従来通り、祖国存亡の折に英霊が如何に戦ったのか、英霊のまごころを表現しておりますが、今回は非御覽戴きたいものが三点ございまして、一点目は、幕末の志士橋本左内命御遺品でございます。

二点目は、下岡蓮杖作「箱館戦争図」です。

三点目は、遊就館貴賓室の公開であります。昭和七年四月二十七日天皇、皇后両陛下行幸啓の御折、この貴賓室に入御遊ばされたとの神社の記録がございます。本館三階にて公開しております。

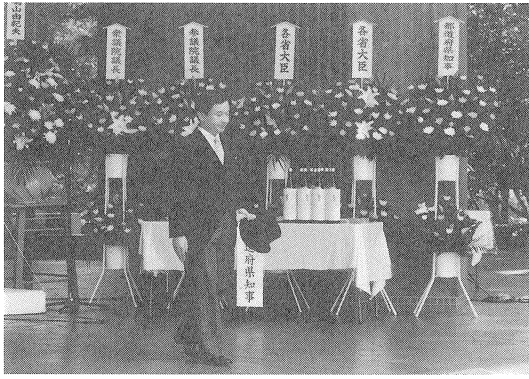
以上、靖國神社の近況につきまして御報告を申し上げます。今後共更なる御支援のほど御願ひ申し上げ、祭典終了に当たり御礼の御挨拶とさせていただきます。

(飯田正能記)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

創建五十周年記念秋季慰霊祭

(財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会



御拝礼を終えられた皇太子殿下

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会主催の創建五十周年秋季慰霊祭が、平成21年10月19日(月)、澄みわたる秋空のもと皇太子殿下の行啓を仰ぎ、内閣総理大臣(代理)、外務大臣、厚生労働、環境、防衛各大臣(代理)、自民、公明、社民各党の代表等の参列を頂き、厳粛盛大に執り行われた。

この日、六角堂には、皇太子同妃両

殿下御下賜の大花籠が飾られ、その側には内閣総理大臣、衆参両議院議長、最高裁判所長官、各省大臣、各都道府県知事他各方面からの生花及び供物が整然と供えられた。

定刻午後一時、皇太子殿下が、航空自衛隊音楽隊の奏楽に迎えられて御臨場、式典は開始された。

参列者全員による「君が代」斉唱の後、菅沼豊子先生方による献茶の儀が行われ、次いで宮下創平墓苑奉仕会会長が式辞を奏上した。

宮下会長は式辞の中で、創建五十周年記念に当たり、慰霊奉賛の灯火を次の世代へ伝えていく旨の強い決意を述べた。

次いで、吉永洲神氏(尺八・岡田純明氏、舞・林神宗氏、菊田宗正氏)が昭和天皇の御製を、石橋一歌氏(龍笛・逢坂龍信氏)が今上陛下の御製を朗々と献吟し、舞い納めた。続いて児童合唱団「音羽ゆりかご会」の皆さんによる童謡「里の秋」等の献歌が行われた。御英霊の皆様方も、さぞや古里を想い、安らかなお気持ちになられたことと思ふ。

次いで、鳩山内閣総理大臣の「追悼の辞」を、松野内閣官房副長官が代読し、平和を守り、二度と悲惨な戦争を起こしてはならないとの不戦の誓いを

追悼の辞

本日、皇太子殿下の御臨席の下、千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭が挙行されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し述べます。

先の大戦が終わりを告げてから、六十四年の歳月が過ぎ去りました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠っておられる三十五万余の方々を始め、あの苛烈を極めた戦いの中で、祖国を思い、家族を案じつつ、戦場に散り、戦禍に倒れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で亡くなられた数多くの戦没者の方々に心から冥福をお祈りします。そして、今なお海外に眠っておられる方々のご遺骨を一日でも早く祖国日本にお迎えすることが政府の責務

式辞

澄み渡る秋空のもと、本日ここに、皇太子殿下の御台臨を仰ぎ、御遺族及び御来賓多数の参列を得て、秋季慰霊祭を挙行できますことは、誠に感激に堪えないところであります。

特に本年は、当戦没者墓苑がこの地に創建されましたから丁度五十年の年を迎えました。

先の大戦におきましては、広大な戦場で数多くの将兵が勇戦敢闘して、

であると、決意を新たにしております。

今日の日本の平和と繁栄は、戦没者の尊い犠牲と戦後の国民のたゆまぬ努力の上に築かれています。悲惨な戦争の教訓を風化させることなく次の世代に継承し、いま一度不戦の誓いを新たにし、平和国家として国際社会の先頭に立ち、世界の恒久平和の確立に全力を尽くしてまいります。

終わりに、戦没者御遺族の方々の今なお変わることのない深い苦しみと悲しみに思いを致すとともに、皆様方の御平安を心から祈念して、追悼の言葉とします。

平成二十一年十月十九日

内閣総理大臣 鳩山由紀夫

戦場に倒れました。また、多くの抑留者が極寒・辺境の地で命を失いました。さらに、少なからざる一般邦人の方々が、戦闘に巻き込まれて、いたましくも命を失いました。その数、二百数十万に及んでおります。これらの方々は、祖国の安泰を願い戦場で敢然と戦いながらも、家族のことを忘れることはなかったでしょう。こうした方々の御遺族の御心情を思うとき、今なお耐え難い胸の痛みを覚えるのであります。ここに、



宮下奉仕会会長「式辞」



臨場される岡田外務大臣



松野官房副長官「総理追悼の辞」

述べた。

次いで、参列者一同起立する中、皇太子殿下は墓前に進まれて拝礼され、戦没者の御冥福を祈念して黙祷を捧げられた。参列者一同も殿下に合わせ、拝礼・黙祷を行い、慰霊の誠を捧げた。拝礼を終えられた殿下は、一同がお見送りする中を、御遺族、御来賓等に御会釈を賜りながら御退場になられた。続いて陸海空自衛隊の各代表部隊が音楽隊と共に威容を整えて整齐と拝礼した。その後、御来賓の献花、参列者の焼香と続き、式典は午後二時過ぎ、滞りなく終了した。



音羽ゆりかご会の皆さん

謹んで国難に殉じられた戦没者の方々に心からなる感謝と哀悼の誠を捧げ、御冥福をお祈り申し上げる次第であります。

当千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、海外で戦没された方々の御遺骨を収骨、祖国にお迎えしましたが、お名前が分からない等のため、御遺族にお渡し出来なかった御遺骨三十五万四千三百余柱が、現在奉安されております。御遺骨収集の努力は今なお続けられておりますが、今日未だ海外に眠る御遺骨の一日も早い御帰還を御遺族の皆様と共にお待ち申し上げます。

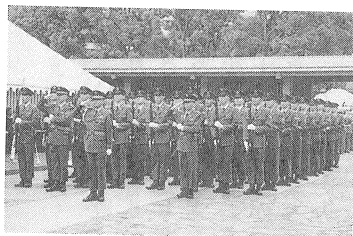
私ども、財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会は、発足以来半世紀にわたり、微力ながら墓苑を国民的聖地として幅広く且つ末永く戦没者の慰

霊奉賛の場とするよう努めて参りました。幸い関係各方面の暖かい御理解も得られ、その実現に御協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。今後とも、慰霊奉賛の灯火を守り、これを力強く次の世代へと伝えるべく努力を続けて参りたいと考えております。この上とも御参列の皆様のご格別の御高配と御協力を切にお願い申し上げます。

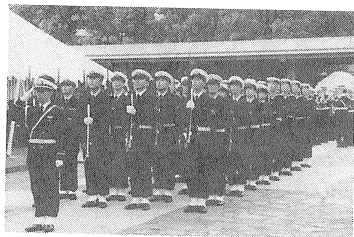
本日は誠に有り難うございました。
平成二十一年十月十九日

(財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

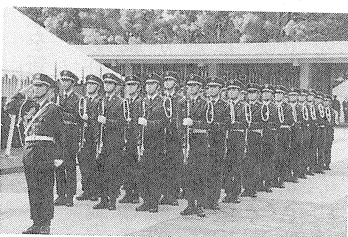
会長 宮下 創平



陸上自衛隊第1普通科連隊



海上自衛隊教育群



航空自衛隊生徒隊



表題は、当協議会の参加団体である「特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集団」（平成20年度に改名、ただし、登記上は「特定非営利法人ジェイワイエムエイ」と表示、英文表記は「Japan Youth Memorial Association」、略称「NPO-JYMA」）の年次活動報告書の題名であるが、同法人では、昨年9月に、平成20年度の活動（派遣報告書を発刊した。その発刊の辞の中で、学生代表（拓殖大学）の森啓太君は、「…このように世界中でこれまでに以上に平和が強く望まれていることと思います。私たち日本人が先頭を切つて平和へと導いていかなければならぬのであり、これは私たちの使命であると感じております。そのためにも私たちは派遣での経験や日々の活動を通して、先の大戦で先人方に残していた「平和」を、日本だけでなく、世界中へと伝え、私たちの世代だけでなく後世にも残していかなければと強く感じております。本年度も私たちJYMAは、平和のために多くの犠牲を払われた先人の方々の志を忘れず、精

進して参りたい所存でございます」と明言されている。誠に頼もしく、美しい国・日本の未来を託すに足る、志ある青年達の集まりである。また、同報告書によれば、平成20年度は、厚生労働省並びに関係諸団体との協力態勢の下、先の大戦の激戦地六地域（硫黄島、沖繩、フィリピン、ソロモン諸島、東部ニューギニア、モンゴル）と強制抑留地（シベリア・ザバイカル地方）の合計七地域、一〇次にわたって延べ53名の遺骨収集派遣を行い、一〇六三柱の戦没者・抑留中殉難者の御遺骨を祖国へお迎えすることができ、氏名不詳の一四〇六柱の御遺骨を、平成20年5月25日、三笠宮、同妃両殿下の御臨席を仰いで、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に無事納骨することができたとのことである。

なお、同法人は、昭和42年6月、有志学生による「学生慰霊団」として発足。活動目標を①日本軍玉砕地における慰霊及び慰霊碑建立、②現地における政治・経済・地理・風俗などの実地調査、③日本文化の紹介、及び住民との親善とし、アルバイト収入を基に学生慰霊団の派遣を行ったが、昭和45年6月「学生遺骨収集団」と改名、遺骨収集を主たる活動目標に変更し、第三次派遣から遺骨収集を行った。昭和46年から団員を学生に限らず、広く一般

特定非営利活動JYMA日本青年遺骨収集団通算実施状況

次 派 遣	参加日数	参加人員	収骨柱数
一〇一次派遣迄	二、一九三日	八六四人	一三七、四三二柱
一〇二次派遣	一五日	五人	三九柱
平成七年度	一八二日	四一人	一、〇九八柱
平成八年度	七四日	二四人	五八七柱
平成九年度	一八一日	四九人	九七三柱
平成一〇年度	二二〇日	四一人	一、七八五柱
平成一一年度	二二九日	三八人	一、五五三柱
平成一二年度	二〇八日	四九人	一、〇二三柱
平成一三年度	二二六日	四七人	一、〇八四柱
平成一四年度	二二五日	四四人	一、二四七柱
平成一五年度	二五〇日	五九人	九九三柱
平成一六年度	二二九日	四四人	七一五柱
平成一七年度	一九六日	四八人	五〇六柱
平成一八年度	一四三日	三〇人	三八二柱
平成一九年度	一四〇日	三九人	五〇八柱
平成二〇年度	一五七日	五三人	一、〇六三柱
二五六回総合計	四、八八八日	一、四七七人	一五〇、六六一柱

若人にも呼び掛けることとし、同年5月1日、名称を「日本青年遺骨収集団」と改称。昭和47年3月、民間の遺骨収集関係団体を一本化した組織である「戦没者遺骨収集促進団体協議会」の加盟団体となり、前年の第六次派遣に続き厚生省との官民一体の民間遺骨収集が実施されるようになり、往時の関係者の努力、多くの篤志家・優良企業者の支援により、青年層の派遣再開のため、関係団体及び厚生省の了承を得て、新たに現役大学生に呼び掛け、平成7年2月、5年ぶりに日本青年遺骨収集

度の第一〇一次派遣を最後に、自然消滅的な団体状態に陥った。一方、遺骨収集事業は、東西冷戦構造の崩壊による世界情勢の激変に伴い、長い間懸案であった旧ソ連を始めとする東側諸国でも政府派遣による遺骨収集が実施されるようになり、往時の関係者の努力、多くの篤志家・優良企業者の支援により、青年層の派遣再開のため、関係団体及び厚生省の了承を得て、新たに現役大学生に呼び掛け、平成7年2月、5年ぶりに日本青年遺骨収集

団としての政府派遣団派遣隊を再結成し、第一〇二次硫黄島遺骨収集派遣を実施することができた。また、平成7年6月の第一〇三次派遣からは初めてシベリア抑留中死亡者遺骨収集派遣に参加した。以後毎年政府派遣を中心に活動を続けつつ、ペリリユー島残存遺骨調査派遣・同遺骨収集派遣を始め自主派遣も実施する等活動の幅を広げ、かつ従前の任意団体からNPO法人へ組織改善を進め、平成14年9月30日、東京都知事より特定非営利活動法人ジェイワイエムエイとして認証を受け、10月16日をもって設立登記を完了した。

それによって同法人は、従来の戦没者及び抑留中死亡者の遺骨収集並びに慰霊巡拝事業の他、アジアの都市型スラム地区における公衆衛生指導事業、国際協力活動や平和推進活動に関する普及啓発事業の推進を目的として、幅広く活動することとなった。

なお、平成20年度よりNPO法の改正に伴い、日本青年遺骨収集団と表記できるようになり、名称を「特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集団」と改名し、組織を強化して、戦没者並びにシベリア抑留中死亡者の遺骨収集派遣等の慰霊顕彰事業を活動の縦軸とし、かつての戦域における民生向上や枯渇する地球資源の保護等の事業

を横軸として、今後なお一層、過去の実績と伝統に負けない活動を展開して行きたいと意欲を燃やしている。

次に右の報告書及び同法人の月刊機関誌『遺烈』（第115号）に掲載された遺骨収集派遣隊員の報告記事の幾つかを転載させていただいた。

【第二五六次硫黄島派遣報告】

平成20年度

第四次硫黄島派遣を終えて

第二五六次硫黄島派遣隊員
 国士館大学四年 高橋 雅樹

去る平成21年2月11日から27日の期間で平成20年度第四次硫黄島派遣が実施された。私は以前から硫黄島派遣への参加を強く希望しており、今次派遣において初めての参加となった。

憧れを抱いて臨んだ硫黄島派遣、島に着いた当初は余り島に来たという実感が無かったが、作業を進め、トーチカや塹壕を見て回ったり、島の壕などに触れたりし、自分が今途轍もない体験をしているのだと実感してきた。作業を進めると同時に資料として持ってきた硫黄島関係の本を夜読んでいる中でも、先人が国や家族、大切な人を守るために戦ったこの島に今、自分はいるのだと思ひ、まるで夢のような感

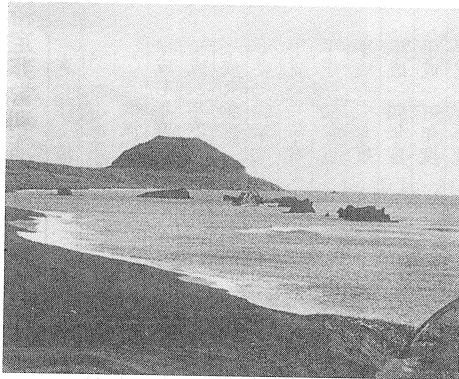
覚から目が覚めた。島の60余年前に起こった事や戦って逝った人、遺された家族の気持ちなどを知り進めて行くうちに、この時間が現在の世の中において、どれほど貴重な体験であるか計り知れないことであると感じた。

当初、一〜三次隊までの成果からいうと御遺骨が発見されるのは難しいと聞いていたが、作業二日目で御遺骨が発見された。これは旧島民の会や、硫黄島協会を始めとする方々の熱意と、英霊の、祖国へ帰りたい、ここにいるんだよ、というお気持ちがあったのだと思う。お迎えした御遺骨を丁寧に洗骨した後、私たちは共に本土へと無事帰還した。翌日の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で実施された遺骨引渡式には、かつて

の戦友や御遺族の方々が大勢参列された。式は厳粛に執り行われ、無事お連れ出来た先人や未だに帰ることが出来ず島に眠られている先人を思うと涙が止まらなかつた。

今回の派遣で思った事は、戦争に勝ちも負けも無いのだということ、ひとたび戦争が起これば必ず人が死に、それを悲しむ人がいる。それを領土や経済的利益で、勝った負けたと言うのはおかしいのではないか。また、命を懸けて日本の国土を守った英霊に敬意と感謝の気持ちがあるのなら、私たちがしなければならぬ事は、先人たちが守ろうとした日本という国をもっと良いものにしなくてはならないという事だと思ふ。そうでなければ先人たちが命を懸けてまで戦った意味が薄れてしまうのではないか。私たちは日本人として先人の想いを引き継ぎ、未来へと繋いでいく義務があるはずだ。

私は大学卒業後、陸上自衛隊に入隊する。かねてから念願の硫黄島派遣に参加し、現状を目の当たりにしたことで、戦争或いは現在の日本に対する意識が強まった。ただ自衛隊に入隊するのではなく、そういった意識を持った上でこの国を守っていききたい。そして全ては大先輩である先人や戦友の方々と同じ意志であると胸を張って言える



千鳥ヶ浜と摺鉢山

ような人間になることを目指しているように思う。いつかまた、硫黄島の地に再び降り立った時に「皆様方の想いは現在もちゃんと伝わっています」と報告できることを心待ちにしている。

【第二六〇次モンゴル派遣報告】

七〇年のときを経て

第二六〇次モンゴル派遣隊隊員

国士館大学三年 山本 沙織

地中から掘り出された御遺骨は余りにも冷たく、70年という長い歲月、暗く冷たい地中に眠っておられたと思うと胸が痛む。

今回の派遣は、私にとって初めての遺骨収集派遣であった。派遣前、家族や友達からはひどく心配された。御遺骨の収集をするということについて恐怖を覚えたのであろう。私自身不安ではあったが、実際にこの手で御遺骨に触れた時は、ただただ70年の時を経てやっとお迎えできたという気持ちしかなかった。

派遣初参加の私は、どこまでも続く広大な草原の中、何の目星もつかず、

途方に暮れる御遺骨調査に気持ちが悪くじける時があった。しかし、遺族会の方々の御遺骨にかける想いは格別である。今回はモンゴルで戦死された御遺族の方は一人で、ノモンハン事件ではない。しかし遺族会の皆様はすべての御遺骨が自分の父親だと思つて収集するのだという。土を掘つたりする作業は現地の若い作業員が行うにしても、現地の過酷な環境の中、何時間も地表を捜して歩いたり、座りっぱなしの洗骨作業は御遺族の方には腰を痛める重労働であるはずである。しかし収集場所では絶対に手を休めない。御遺骨がなかなか見つからない時に、「ここにいますつて手を挙げてくれたら」と

叫びた御遺族の方、決して冗談ではない。是が非でも祖国にお連れしたいのだ。収集にかける一生懸命な想いが痛いほど心に響いた。その気持ちは派遣団一同同じである。遺族会の方々は収集中どんなに疲れていても私たちに体験談を話してくださったり、不慣れな私を気遣つてくださった。しかしそんな気丈に振舞っている御遺族の方も、収集作業が終わわり、ぐったりして宿舎に帰つていかれるのを見ると、本当に頭が下がる気持ちになった。私は気持ちの面でまだまだ御遺族に追いついていないことを思い知らされた。

今派遣で私は二回涙を流した。一回目は追悼式のときである。今派遣が初参加の私にとつて、収集中は作業で頭がいっぱいだった。じっくり御遺骨に向き合い、御英霊に思いを馳せる余裕がなかったのかも知れない。追悼式まで一回も涙を流さなかった私は、追悼式も泣かないと思つていた。しかし、御遺骨の前に、自分の読んでいる追悼文が見えないほど涙が溢れてきた。先人は最期に何を想つたのだろう。自分のことよりも祖国に残してきた家族を案じていたかも知れない。そして未だ祖国に帰る願いを果たせない御英霊を残してこの地を去ることに心から悲しみが込み上げてきた。

御遺族の方が参列された引渡式は、追悼式とはまた違った感情だった。献花のとき派遣団の前を通られた御遺族の方が深々と頭を下げて「ありがとうございます」とおっしゃつて下さつた。御遺族の方は異郷の地で愛する方を失い、御遺骨は帰つてこず、どんなに悲しい想い、悔しい想いをされてきたのだろうか。少しでも御遺族の想いに触れた気がした。

今年ノモンハン事件70周年の記念の年である。70年という月日は長いものであり、70年で日本は変わった。国だけでなく人も変わった。今の日本は



御遺骨を焼骨

新しいものばかり追い求め、過去を振り向くことはない。そんな日本にいる私たちにとっては70年前など遠い昔である。しかし戦場となったノモンハンの地においては色褪せることはない。御遺骨には根が張り、遺留品はどんな土に返つていく。しかし御遺骨を手に取り、御英霊と向き合つと、確かに先人の時間はここで止まっていると感ずる。日本の発展の中で取り残された御遺骨は、70年の時を経てまだ眠つていらつしやる。御遺族の方もずっと愛する者の帰りを待ち続けているのだ。

帰国してみても、やはりノモンハン事件についてほとんどの学生が知らないこと、今なお祖国のために散つた英霊が世界各地で眠られていることさえ知

らないことに憤りさえ覚える。

ほんの数カ月前までは私もその一人であった。そんなことを知らない今の若者は無責任であるし、私たちがこうして生きているのは、先人たちのおかげであることを忘れてはならない。

【第二六〇次モンゴル派遣報告】

知らなくてはいけない

第二六〇次モンゴル派遣隊長

日本大学三年 川又 祐子

「どうして祐子がモンゴルなんかに行かなくちゃいけないの？」今回、私がJYMAとしてモンゴルに遺骨収集派遣に参加すると両親に伝えたら、母に言われた言葉です。一人娘の私がモンゴルという場所に、しかも観光ではなく、御遺骨をお迎えに行くというところが、どうしても理解できなかったようなのです。心配のあまり、そういう言葉が出てきたのだと思います。

私は、今回初めて遺骨収集事業に参加しました。

今年の初め、天皇・皇后両陛下がサイパンを訪問されたニュースを見ていました。サイパンで多くの日本人の方々が亡くなされたことはなんとなく知っていました。大学の先生が教えてく

れるまで、「御遺骨」や「遺骨収集」という言葉を私はまだ知りませんでした。

戦争のことをもっと知りたい、ましてや今もまだ祖国に帰ることができない御遺骨が多く残っているのならば、遺骨収集に参加してみたい、そう考えました。その後、JYMAの活動を知り、今回の派遣に参加した次第です。しかし、「ノモンハン事件」を知っている人は、私の周りでは少数しかおらず、歴史の教科書や参考書にも三行ほどしか載っていません。「ノモンハン事件？何それ？」というのが私たち若い世代の人々の反応でした。もちろん私も最初はその中の一人で、図書館などでノモンハン事件の本を読み、やっとな概要を知ったのです。

実際にモンゴル遺骨収集派遣に参加し、戦闘のあった場所、数多くの遺留品、そして御遺骨を目にして、本当にここで戦争があったのだということを実感することができました。お迎えした御遺骨の中に、歯の数からして、自分より若い年齢であろう御遺骨がありました。その御遺骨を見たときは複雑な想いになり、戦争の愚かさを感じました。どうして、戦わなくてはならなかったのだらう、どうして、どうして、という思いが頭の中を巡っていました。戦争は本当にしてはならない、そう強

く実感しました。また、モンゴルの人々は大変優しく、作業も一生懸命行ってくれました。かつて、関東軍が攻め入ったモンゴルで、モンゴルの人々の手を借りて遺骨収集を行っているというところが、なんだか不思議に感じました。

初めての参加ということもありましたが、経験不足や知識不足、遺骨収集作業への意識の低さ、自覚の少なさによる、自分の軽率な言動もあり、自分もやはり戦争を知らない若者のひとりだったということを感じました。しかし、遺族会や先輩の方々の御遺骨に対する思いや敬意方を見てみると、自分の中にも何かが変化したような気がしました。それは、「戦争のことを知りたい」という、かつての目的から「御遺骨をお迎えしたい、日本にお連れしたい」という気持ちに変化したということだと思います。そのほかにも、もともと遺骨収集事業のことを知ってもらいたい、という思いも生まれました。母のように、周りの友人たちのように、戦争を知らない人、知ろうとしない人たちにもっと戦争のことを伝えたいと強く思いました。伝えなくてはならないのです。そのためにもっと経験し、学ぼうと思います。

賛助会員からのお便り

「当協議会に寄せられました賛助会員のお便りの幾つかを紹介させていただきます（敬称略）。会員の皆様からのお便りをお待ちしております。当協議会事務局宛にお寄せ下さい。」

○今日は、暖かな、すっかり春を迎えた一日となりました。満開の桜のもと、入学式が行われ、四月は新たな年のスタートです。無理なことをお願い致しましたのに、厚かましい私の願いを快くお受け頂きました有り難うございました。『慰霊』十三号本日頂きました。毎号拝読しており、内容がとても充実していることに、お作りになっただけの方の苦勞を感じております。

電話で一才申しましたが、今号の「シベリア鎮魂慰霊祭」の中の河越少将の息子さんの追悼の辞に涙が止まりませんでした。戦争の本は読んでいても、戦地のものが多く、戦後遺族の方々のご苦勞をされたことは想像できてもこのように語られないと、私（昭和二十一年生まれ、父は軍人でしたが）共には分からないことです。河越閣下のことを、父の同期生に少し聞きまして、毒殺とのこと、十年間もの長いシベリ

事務局からの報告等

○参加団体連絡調整会議の開催

当協議会では年2回、首都圏所在の正会員団体による連絡調整会議を開催していますが、平成21年11月20日(金)、山本会長出席の下、平成20年度第2回目の会議を開催しました。

会議の概要は次のとおりです。

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑・会議室
(会議出席団体)

海原会、英霊にこたえる会、エラブ

カ東京都人会、神奈川県偕行会、埼玉

偕行会、全ビルマ会、群馬偕行会、太

平洋戦争戦没者慰霊協会、千鳥ヶ淵戦

没者墓苑奉仕会、東京都郷友会、東京

ヤゴダ会、特攻隊戦没者慰霊平和祈念

協会、陸士第五十七期同期生会、JY

MA

(主要協議事項)

① 協議会の業務現況について

特に海外遺骨収集協力の状況を敷衍

説明した。

② 国立追悼施設建設反対運動につい

て

ア 署名運動への協力

英霊にこたえる会が発起した全国署

名運動に積極的に協力することが申し

合わされた。

イ 鳩山総理大臣宛公開質問状の提

出について

協議会提案の「公開質問状」提出の

趣旨は合意されたが、文脈については

更に慎重に検討すること、連記団体名

については更に拡充するよう努力する

こと、提出時期のタイミングについて

なお検討すること等の意見が出され、

今後更に相互協力して検討することが

申し合わされた。

③ 今後の「戦没者慰霊の意識啓蒙活

動」について(自由討議)

協議会設立の目的である戦没者慰霊

事業永続のための活動テーマのうち、

今回は「意識啓蒙活動」を論題に掲げ、

予め指名した、英霊にこたえる会の発

表に引き続き自由討議をお願いした。

戦争を知らない世代への働き掛け、

関心を示した人から人への芋蔓式働き

掛けなど、その基本となる国への働き

掛けなど、活発な意見交換がなされた

が、限られた時間の中では具体論に至

らず、議論は次の機会に持ち越された。

しかし、討議を通じて各団体の日頃の

苦心惨憺の活動状況を認識することが

でき、互いに啓発されること大であっ

た。

④ その他の自由懇談

特に、海外慰霊碑の維持管理につい

ア 抑留をやつと終え、さぞかし無念で

あられたらう」と、そう思いながら、

当時まだ十歳にも満たない少年の、お

弁当もない、修学旅行にも行かれない

という、戦後六十四年経っても決して

忘れられないから、追悼の言葉に語

られたのだらうと、繰り返し読み、繰

り返し泣きました。インターネットで

「防人のうた」や河越さんのお嬢様が

出された本を知り、今注文しています。

六十四年前には想像すら出来なかった、

豊かで物質に恵まれ、長い平和の続く

日本となりました。でも、勇敢に戦つ

た第五軍参謀長河越閣下のことも含め、

語り継いでいってこそ平和の有り難さ

があるかと思えます。北朝鮮のミサイ

ルが日本上空を飛んでも何事もなかつ

たかのように次の日を迎えるのではな

く、備えあつての外交努力を我々も国

民として改めて考える時かと思いまし

た。

簡単にお礼状をと思いがら余計な

ことを書いてしまいました。皆様の

(このような団体を持続させている)

お力、大変かと思いますが、益々充実

しますよう、よろしくお願いいたしま

す。どうぞご自愛下さいませ。

(21年4月6日、賛助会員田中信代)

○前略 下記の通り入会をお願い致し

ます。

昭和二十年ごろ朝鮮から、姉と妹と

母と私の四人で讃岐へ引き揚げて来ま

した。

父が朝鮮から出征し、ビルマで戦死

したことは知っていました。生活に

追われて(との言い訳で)十分な供養

をして来ていません。

最近、靖國神社の近くに勤務するこ

ととなり、毎日お参りしています。

初めて、父のビルマでの戦死の様子

が少し分かってきました。千鳥ヶ淵墓

苑で、貴協議会の存在を知りました。

靖國神社で調べていただいた結果、父

を含め、六人の親族が戦死しているこ

とが分かりました。

増田 勇(私の父) ビルマにて戦死

増田正見(父の弟) 泰国にて戦死

増田正範(父の従兄弟) フィリピン・

ルソン島にて戦死

増田健五郎(私の祖父の兄)

日清戦争にて戦死

関 芳沖(私の母・旧姓関美代子の

弟) ビルマにて戦死

小野武市(私の母の姉・旧姓関シズ

コ)の夫) フィリピンにて戦死

少しでも供養になればと思ひ、入会

を希望します。

(21年9月6日、賛助会員増田修也)

早々

て、長年の地道な活動に基づく東京ヤ
グダ会の意見開陳が行われ、今後の課
題の重さを改めて認識させられた。

○慰靈祭等への参列

① 平成21年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑創
建五十周年記念秋季慰靈祭(本号に
掲載)

柚木理事長が参列し、事務局からは
式典の支援を行いました。

② 慶應義塾戦没者追悼会(学徒出陣
六十六周年)

平成21年11月14日(土)慶應義塾大
学三田キャンパス・西校舎五一九番教
室において、慶應義塾大学元塾生及び
関係者多数参列の下、爾々と催行され
ました。追悼会には慶應義塾大学名誉
教授、元塾長、早稲田大学校友代表始
め学徒出陣該当期の同期生等が、学徒
出陣の状況、学徒出陣戦没者及び塾員
戦没者等二千二百二十三名の追悼行事
の経過等を述べられ、共に追悼の誠を
捧げる必要を切々と訴えられました。
また同時に、命を懸けてこの国を護つ
た人達のため、この国を変えなければ
ならないこと、戦争を知らない世代に
歴史を伝えなければならぬことなど
の追悼の辞が述べられました。

同追悼会には、当協議会から若木理
事が参列しました。

○国立追悼施設建設反対運動について

民主党に政権交代して以降、従来の
自民党体制の見直しが意欲的に進めら
れており、今後への懸念と期待が相半
ばする中、政権交代当初に、鳩山、岡
田氏等の一連の「どなたでもわかま
りなくお参りできる新たな国立追悼施
設の建設」発言については、靖國神社
を中心に戦没者慰靈活動に関わってい
る私どもとして、このまま座視する訳
にはまいらず、反対の声を上げるべく
関係諸団体と協議してまいりました。

我々の機関誌やホームページによる
広報に止まらず、政府への要望書提出、
同志議員による国会質疑、マスコミに
よる反対キャンペーン、署名運動、街
頭広報など、様々な手段で様々な方面
への働き掛けを、これから模索しつづ
進めてまいりますので、会員の皆様の
ご支援をお願いいたします。

その先頭を切って、英霊にこたえる
会の発起による「署名運動」が開始さ
れました。当協議会としては、事項に
掲げる要領で協力したいと思いますの
で、よろしくご協力をお願いします。
また、前掲の参加団体連絡調整会議
の記事のとおり、鳩山内閣総理大臣宛
の「公開質問状」を慰靈諸団体の連名
で提出すべく、鋭意準備を進めており
ます。

本件に関する会員の皆様の積極的な
ご意見、ご協力をお願いします。

○署名運動にご協力をお願いします

英霊にこたえる会の発起で「国立追
悼施設の建設に反対する署名運動」が
いち早く開始されました。当協議会と
してもその趣旨に賛同し、積極的に協
力したいと思います。会員の皆様のご
協力をお願いします。

ご賛同いただける方には、お名前を
左記の要領により、当協議会事務局ま
でご通知いただきたくお願い申し上げ
ます。

(署名運動へのご参加要領)

- ・ 電話、FAX、又はEメール
- ・ 電話及びEメールでご通知の場合
は、事務局が署名用紙へ代筆します。
- ・ 署名用紙が必要な方は、電話、F
AX等でご連絡下さい。

新入会員及び寄附者(敬称略)

(9月1日～11月30日)

【賛助会員】

増田 修也

【寄附者】

伊奈 作一郎	西	進
平居 新市郎	芳賀 誠	治
大岩 宗哲	小沼 愛	
森 善治	坂下 邦弘	

宮 森 作 造 山 口 春 治

当協議会会員御入会の御案内

当協議会におきましては、慰靈
事業の永続を図るため、なるべく
多くの方々の会員ご加入をお待ち
しております。

皆様の御協力をお願いいたしま
す。

会員の区分と年会費は次のとお
りです。

- 一 賛助会員
(本会の趣旨に賛同する個人)
年会費 三〇〇〇円
- 二 賛助特別会員
(特別御芳志の賛助会員)
年会費 五〇〇〇円
- 三 正会員
(本会の趣旨に賛同する慰靈目
的の法人・団体)
年会費 一〇〇〇〇円
- 四 特別会員
(本会の趣旨に賛同する法人・
団体)
年会費 五〇〇〇円